

その他の水生生物



オニヤンマの幼虫(ヤゴ)
Anotogaster sieboldii

体長35mm程度。紡錘形がつぶれたような体をしています。流れの緩やかな細流に生息します。6~10月に羽化。



ミルヤンマの幼虫(ヤゴ)
Planaeschna milnei

体長30mm程度。細長い紡錘形をしています。山間の森林に囲まれた暗い溪流に生息します。6~11月に羽化。



ダビドサナエの幼虫(ヤゴ)
Davidius nanus

体長20mm程度。人間の足跡のような形の触角が特徴で、体には毛が生えています。5~7月に羽化。



ヘイトンボの幼虫
Protohermes grandis

体長60mm程度。赤褐色の頭部・胸部と大きなアゴが特徴で、他の水生昆虫を捕食しています。6~8月に羽化。



マダラガガンボの幼虫
Tipula coquilletti

体長60mm程度。体は柔らかく伸び縮みします。山地溪流や細流に生息し主に落ち葉を食べます。4~6月に羽化。



サワガニ
Geothelphusa dehaani

体長(胸甲)25mm程度。淡水産のカニで岸際の浅い流れの石の下に棲んでいます。体色は地域によって様々です。

ここで紹介した以外にも多くのカワゲラ・カゲロウ・トビケラやトンボの幼虫、またゲンゴロウやガムシの仲間、魚類ではヤマメなど様々な水生生物が金目川には生息しています。ぜひ探してみましょう。

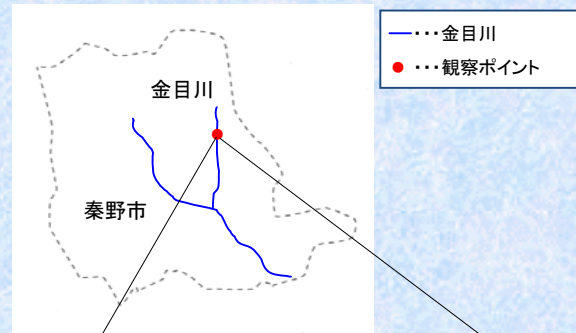
参考文献

- ・菅井康司(2008):水生昆虫入門.地球丸,東京,129pp.
- ・川合禎次・谷田一三(2005):日本産水生昆虫.東海大学出版会,神奈川,1342pp.
- ・刈田敏(2006):水生生物ハンドブック.文一総合出版,東京,65pp.
- ・丸山博紀・高井幹夫(2000):原色川虫図鑑.全国農村協会,東京,244pp.

観察ポイント

金目川は厚木、伊勢原、秦野から平塚の4市および中郡大磯町を流れる河川です。

今回紹介した生物はいずれもヤビツ峠入り口付近の金目川で確認されたものです。このあたりは周りを森林に囲まれ、水量は豊富で大きな転石が多くあります。このようにヤビツ峠入り口付近には河川上流部としての特徴が残されており、河川上流部の生態系を理解するのに適した環境といえます。



連絡先

東海大学 教養学部
人間環境学科 自然環境課程

北野 忠

金目川の生き物について
何かわからないことが
あったら、気軽に
電話して下さいね。

0463-58-1211(代)



作成:東海大学 教養学部 人間環境学科 自然環境課程

菊地真澄、山田峻之、北野忠

金目川の生き物

上流編



このリーフレットは金目川の上流に生息する水生生物の種類や特徴などを知り、自然環境についての興味をもってもらうために作成したものです。

昆虫のなかで一生のうちの一時期または全てを水中で生活するものを水生昆虫といい、代表的なものにはトンボやゲンゴロウ、アメンボなどがいます。このリーフレットでは金目川上流に多く生息する水生昆虫のカワゲラ、カゲロウ、トビケラの幼虫を中心として、トンボの幼虫(ヤゴ)などその他の水生昆虫についても紹介しています。

カワゲラの仲間



オオヤマカワゲラの幼虫
Drunella lugubris

体長30mm程度的大型種。約3年で幼虫の姿で過ごし、山地から平地の溪流に生息します。腹部末端と胸部下のエラが特徴です。5~6月に羽化。

カワゲラの仲間は世界で2000種以上が確認されており、日本で記録されているのは200種程です。日本全国に分布し、体長は約3~30mmです。約1年の幼虫期間を水中の石の下などで過ごし、年一回、主に春から夏に陸上で羽化します。多くの種は草食ですが大型種のなかには肉食性のものもいます。幼虫は前胸・中胸・後胸がはっきりしているのが特徴で、尾は2本、爪はカゲロウが1本であるのに対し、カワゲラでは2本となります。幼虫の多くは頭部の口器付近や胸部側面にエラがあります。



クロヒゲカワゲラの幼虫
Kamimuria quadrata

体長20mm程度。低い山地の小さい溪流でわずかに見ることができます。6~9月に羽化。



モンカワゲラの幼虫
Calineuria stigmatica

体長30mm程度。胸部の斑紋が特徴で標高500m以上の溪流に生息します。6~8月に羽化。



スズキクラカワゲラの幼虫
Paragnetina suzukii

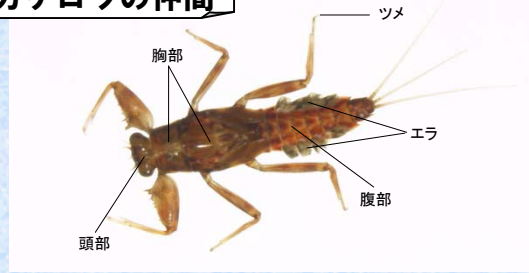
体長30mm程度。頭部のV字型の淡色部が特徴で山地~平地の溪流に棲みます。7~9月に羽化。



コナガカワゲラ属の幼虫
Gibosia sp.

体長15mm程度。光沢を持つ橙黄色の体色が特徴で、川底に潜って棲むため細長い体をしています。4~6月に羽化。

カゲロウの仲間



ミツゲマダラカゲロウの幼虫
Drunella trispina

体長12mm程度。頭部の3本のツノが特徴で溪流の上流域に生息し、川底を這って移動します。体色は生息地によって大きく異なります。6月に羽化。

カゲロウは最も古い有翅昆虫であり、約3000種、日本では約100種が確認されています。日本全国に分布し、尾を除いた体長は3~30mmです。羽化の時期は大半の種が春から初夏で、サナギはなく亜成虫の段階があります。ほとんどが草食ですがマダラカゲロウ科の数種は他の水生昆虫を捕食します。幼虫は腹部の左右や背面にエラを持ち、尾の数は主に3本です。また、棲息する場所や生態によって4つのタイプ(泳ぐタイプ、這うタイプ、砂や泥の中に潜むタイプ、石の上を滑るタイプ)に分けられます。



フタスジモンカゲロウの幼虫
Ephemerella japonica

体長20mm程度。腹部背面にある3本の線が特徴で溪流の砂底に潜って棲みます。6~9月に羽化。



ユミモンヒラタカゲロウの幼虫
Epeurus nipponicus

体長10mm程度。頭部のC字型の斑が特徴で山地から中流の石の上を滑って移動します。6~9月に羽化。



エルモンヒラタカゲロウの幼虫
Epeurus latifolium

体長10mm程度。エラの斑紋が特徴で上流から中流まで広く分布し、石の上を滑ります。3~11月に羽化。



ミドリタニガワカゲロウの幼虫
Ecdyonurus viridis

体長10mm程度。頭部背面の斑紋が特徴で山地から平地の溪流に生息し、石の上を滑ります。5~10月に羽化。

トビケラの仲間



ヒゲナガカワトビケラの幼虫
Stenopsyche marmorata

体長40mm程度。細長い頭部が特徴で、石の間に捕獲網を張ってエサを捕ります。日本全国の上流から下流まで広く分布します。4月下旬~10月に羽化。

トビケラは世界で約1万種、日本では25科300種程度が確認されています。幼虫はイモムシ型で体長は3~40mm、食性は藻類食、動植物の破片食、肉食、雑食とさまざまです。ナガレトビケラ科以外のトビケラは身を守るために木片や葉片、砂、絹などで巣を作り、またその中でも移動する巣を持つ種と捕食のための移動しない巣を持つ種があります。そのため巣の特徴が種を特定する大きな手がかりとなります。多くの種はサナギを経て年に一回の羽化ですが、中には年二回羽化する種もいます。



コカクツツトビケラの幼虫
Lepidostoma japonicum

体長6mm程度。山地~平地の溪流の平瀬や緩流部に多く生息します。巣は葉片製で、移動します。4~10月に羽化。



ニンギョウトビケラ属の幼虫(筒巢)
Goera sp.

体長10mm程度。山地溪流から平地流の平瀬などに生息します。筒巢の材料は小石や砂粒です。



シマトビケラ属の幼虫
Hydropsyche sp.

体長20mm程度。エラを腹部に持ち、雑食性で水中で網を作り流下物を摂食します。山地溪流から平地流まで広く分布します。



ナガレトビケラ属の幼虫
Rhyacophila sp.

体長15mm程度。巣を作らず、石面を移動して他の水生昆虫等を捕食します。山地の小溪流や細流に分布しています。